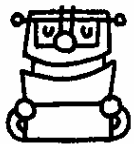


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人とかんきょう / 理解シート

ミミズがいる土はいいといわれるのは、なぜなの



ミミズは、栄養分がたくさんあるところに集まってくるし、ミミズに、よい土をつくるはたらきがあるからさ。

ミミズは、土中の養分をつくる

ミミズの食べ物は、土といっしょに飲みこむ、くさりかけた植物や、動物のふんなどです。野菜くずを土中にうめておくと、どこからともなく、ミミズが集まってきます。野菜くずは、ミミズの体内にある「砂さのう」で、砂すなとこすり合わされてすりつぶされ、栄養分を吸すわれたあと、土のふんのかたまりとして体外に出されます。

ミミズのふんの中に混じった植物のかけらは、トビムシやダニなどの小さい虫が食べます。さらに、細かくされたふんの中の植物を、カビやバクテリアが分解します。ここまで分解された栄養分は、植物の根から吸い上げられ、植物を育てる養分として、使われます。

ミミズは、土をたがやし、土中に空気を入りやすくする

土は、長い間たがやさないと、かたくしまってすき間がなくなり、中に空気が入りにくくなります。植物の根は、土の中で空気（酸素）を吸いこんで呼吸こきゅうをし、土中の養分を水といっしょに吸い上げて、植物の体内に送っています。

ミミズがせっせと口から入れ、こう門から出す土のかたまりは、ふんわりやわらかくなるため、ミミズが土をたがやして、土中に空気が入るすき間をつくる役目をしています。ミミズが1日に出す土の量は、自分の体重と同じぐらいあるといわれています。だから、ミミズが多い土は、やわらかく、空気や養分をたっぷりふくんだ、植物を育てるには、とてもよい土なのです。

牧草地や畑では、ミミズはなくてはならない生き物です。



ミミズは、モグラやネズミ、鳥たちのえさとしても、役に立っているのね。